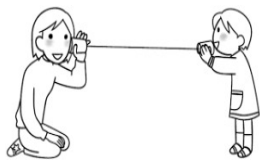


学年目標『高め合い・つながる学年にしよう！』

糸でんわ



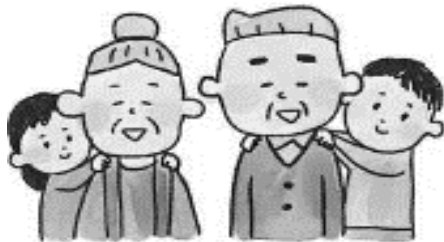
一冊のノート（道徳）

7月の道徳の授業の中で、「家族」をテーマに学習をしました。学習のねらいは、同居する認知症の祖母の言動を通じて、主人公や祖母の心情にとらえ、祖母が書いた『1冊のノート』をみた主人公の心の変化を自分事として考えることでした。

現在、日本が抱える少子高齢化は、15歳の中学3年生が60歳を迎える2065年には、さらに進み、65歳以上の全人口に占める割合が38.4%（2.6人に1人）になると予想されています。

また、家族形態の変化・多様化、世帯の小規模化なども進み、特に高齢の単身世帯が増加し、子どもと同居する高齢者が減少して、介護・福祉へのニーズが高まっています。

これらの現実の課題と向かい合い、道徳の教材を通じて、様々な立場（主人公・祖母・父親など）で物事を考えることができるようになりましょう。



【あらすじ】

祖母と同居する中学生の主人公の「ぼく」は、老いが進む祖母を心配しつつも、その言動にいら立ちを感じ始める。どうにもならないもどかしさを感じたりし、祖母への接し方についても思い悩む。そんな中、「ぼく」は祖母の書いた家族への感謝の思いなどが書かれた「一冊のノート」を見つけたことをきっかけに、祖母の苦しみや自分が祖母から受けてきた深い愛情に気付く。

1組 中居美月 「僕」を自分に重ねてみると、凄く感じものがたくさんあった。今までは祖母に甘えてばかりだったけど、祖母もいつかこんな風になってしまうと考えると、今からしっかりと考えて接していこうと思った。後悔のない接し方をしていきたい。

1組 河田胡春 私の祖父母は、みんな元気で自立しているイメージだけど、実は困っているかもしれないと思った。もしそうだったら、支えてあげないといけないと考える機会になった。また、もし、自分が将来そうになったら、どうしようかも考えていければ良いと感じた。

2組 松井瑠璃夏 すごく家族のことが大切だし、私にとってなくてはならない存在で、今まで以上にもっともっと大切にしたいと、改めて今日の授業で思いました。自分にできることをできるように、日頃、感じる「ありがとう」の気持ちを伝えられるようにしたいです。

2組 高田琉生 自分の気持ちと向き合ういい場面になった。自分自身、おばあちゃんがめんどくさいと思ってしまっていたので、おばあちゃんと一緒にいる時間を大切にしていきたいと思いました。

3組 梅本唯華 私は、祖母と一緒に暮らしているけど、まだ物忘れはなくて、むしろ私の方が忘れん坊やけど、まかせっきりにするんやなくて、自分でやることは自分でやり、もし、その時が来ても助けられるようにしたいです。

3組 高須賀響希 一冊のノートでは、おばあちゃんたちのことを考えさせられ、手紙に込めた気持ちや歌詞を見ると、おばあちゃんたちや、自分の親が年老いた時、大切にしたいと思いました。

4組 藤井歩佳 私もおばあちゃんっ子だったので、とてもおばあちゃんやおじいちゃんのことを大切にしたい気持ちがあります。この一冊のノートを読んで、少しおばあちゃんが思っているようなことが知れたので良かったです。家族を大切にする気持ちは、私にとって一番大切だと改めて思いました。

4組 田上桜史郎 祖父母は、孫のことがとても好きなことが分かった。色々を聞かされたりして、めんどいと思うんじゃないかと、その時間をしっかり大事にして、後で後悔しないようにしようと思いました。

5組 下境竜也 自分も忘れ物をしたりするようになった時に、こうやって怒られたりすると、相当悲しいと思うから、気を付けようと思った。

5組 大西愛莉 改めて祖父母のことを考えると、今まですごく支えられていたし、助けられていたなと思いました。だから、しっかり恩返しができるようにしたいです。

6組 勝琉斗 高齢者がどれだけ苦労しているか分かった。だから、僕たちが支えていかなければならないと思うし、認知症の事をしっかりと理解しようと思った。

6組 樋口隆一 今日の授業で、自分の祖父母だけでなく、父母にも受けた恩を忘れずに、今後、介護が必要になった時に、助けてあげられるようになりたい。

7組 武田響子 手紙の歌詞がとても深くてすごいなと思った。自分が大人になった時、このことを忘れずに過ごしていきたい。

7組 中井陽菜 自分も祖母に対して怒ったり、文句を言ったりしたけど、今回の学習で、もしかしたら、祖母は祖母なりに一生懸命がんばっているのではないかなと思いました。だから、自分の今までの行動を反省し、祖母に何か恩返しをしたいです。